

# 果樹をめぐる情勢

令和5年5月  
農林水産省



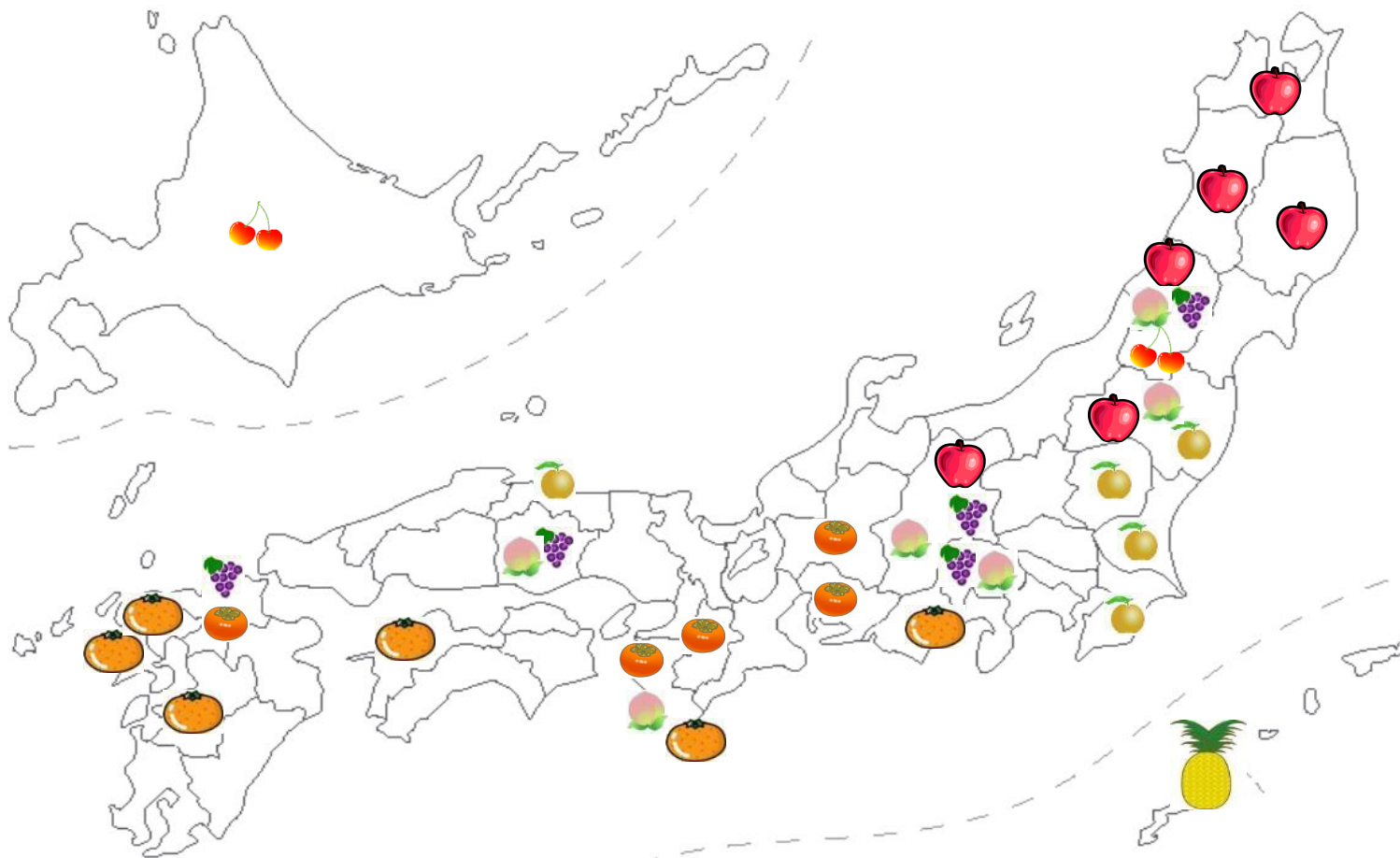
果樹の品目	2
果実の需給構造	4
果樹の生産動向	6
果樹の経営動向	13
果実の流通動向	17
果実の加工動向	18
果実の消費動向	19
果実の卸売価格の推移	22
果実の輸出状況	24
果実の輸入状況	26
果樹研究の推進	27
地球温暖化の影響と対策	30
新たな果樹農業振興基本方針（令和2年4月30日）	31
果樹支援対策	32
（参考①）果樹経営支援対策事業の実施状況	40
（参考②）果樹経営安定対策について	41
（参考③）都道府県別果実産出額	42
（参考④）都道府県ごとの果樹の振興品目（果樹農業振興計画）	43

# 果樹の品目①（全国の栽培状況）

- 我が国では、全国各地で立地条件に応じた多様な果樹が栽培されている。このうち、生産量等が統計で把握されているのは約140品目となっている。
- 東日本を中心としたりんご、西南暖地を中心としたかんきつ類をはじめ、例えば、山形県のおうとう、山梨県のももやぶどう、鳥取県の日本なし、沖縄県のパインアップルといった品目がそれぞれ特徴的な産地を形成している。

## 主な果樹の栽培地域

-  うんしゅ  
うみかん
-  りんご
-  ぶどう
-  日本なし
-  もも
-  かき
-  おうとう
-  パイン  
アップル



資料：農林水産省「令和3年産果樹生産出荷統計」

注：各品目の収穫量の上位県を記載

# 果樹の品目② (品目別ランキング (令和2年))

品目	栽培面積		生産量		生産額	
	(ha)	順位	(t)	順位	(億円)	順位
みかん	39,800	1	765,800	1	1,594	2
りんご	37,100	2	763,300	2	1,547	3
かき	19,000	3	193,200	3	434	6
くり	17,900	4	16,900	16	86	13
ぶどう	17,800	5	163,400	5	1,732	1
うめ	14,800	6	71,100	7	333	8
日本なし	11,000	7	170,500	4	708	4
もも	10,100	8	98,900	6	592	5
おうとう	4,680	9	17,200	15	417	7
すもも	2,880	10	16,500	18	92	11
シラヌヒ (不知火) (デコポン)	2,552	11	38,854	8	167	9
ユズ (柚)	2,292	12	24,459	13	51	17
キウイフルーツ	2,050	13	22,500	14	94	10
イヨカン (伊予柑)	1,874	14	25,505	12	48	18
ポンカン	1,530	15	16,638	17	39	21

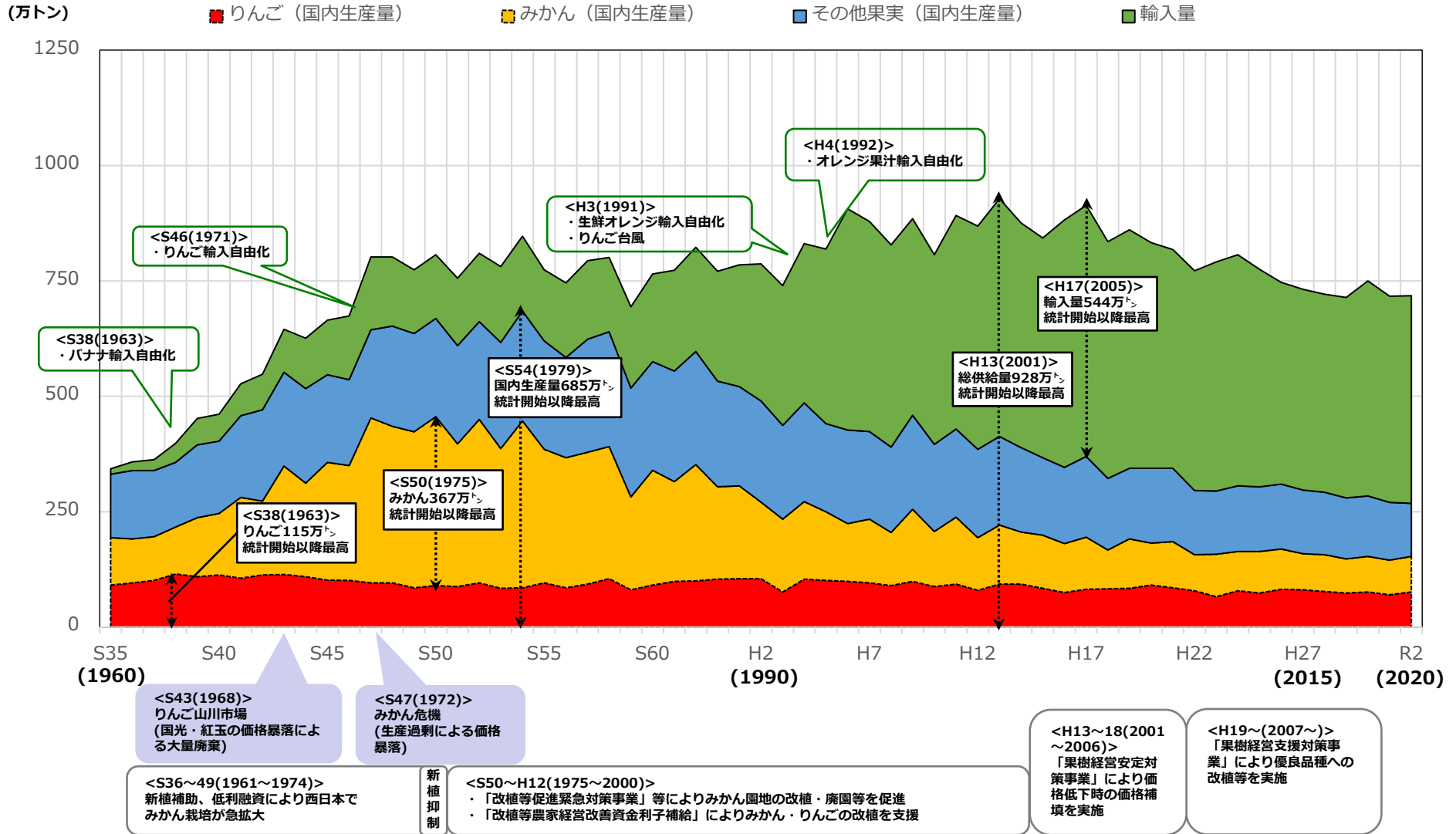
品目	栽培面積		生産量		生産額	
	(ha)	順位	(t)	順位	(億円)	順位
ハッサク (八朔)	1,514	16	25,716	11	48	19
西洋なし	1,480	17	27,700	10	90	12
ナツミカン	1,460	18	30,128	9	51	16
びわ	1,070	19	2,650	38	31	23
ブルーベリー	1,052	20	2,268	40	34	22
イチジク	871	21	10,750	21	71	15
キヨミ (清見)	843	22	13,123	19	27	24
タンカン	786	23	4,440	31	15	30
レモン	654	24	8,635	23	-	-
ギンナン (イチヨウ)	594	25	930	50	-	-
パインアップル	584	26	7,390	25	13	31
オリーブ	546	27	546	54	-	-
カボス	546	28	5,968	27	19	29
カワチバンカン (河内晩柑)	493	29	12,364	20	-	-
ブンタン (文旦)	457	30	10,289	22	42	20

資料：耕地及び作付面積統計、果樹生産出荷統計、生産農業所得統計、特産果樹生産動態等調査

注：赤字は果樹農業振興特別措置法に基づく政令指定品目、青字は政令指定品目の「その他かんきつ」に含まれるもの。  
生産額の「-」表記は、生産農業所得統計の調査対象外の品目。

# 果実の需給構造①（生産量、輸入量の推移）

- 果実の生産量は、戦後大きく増加し昭和54年にピークに達した後、現在に至るまで減少を続けている。
- 輸入は自由化に伴って段階的に増加傾向にあったが、近年は減少傾向となっている。

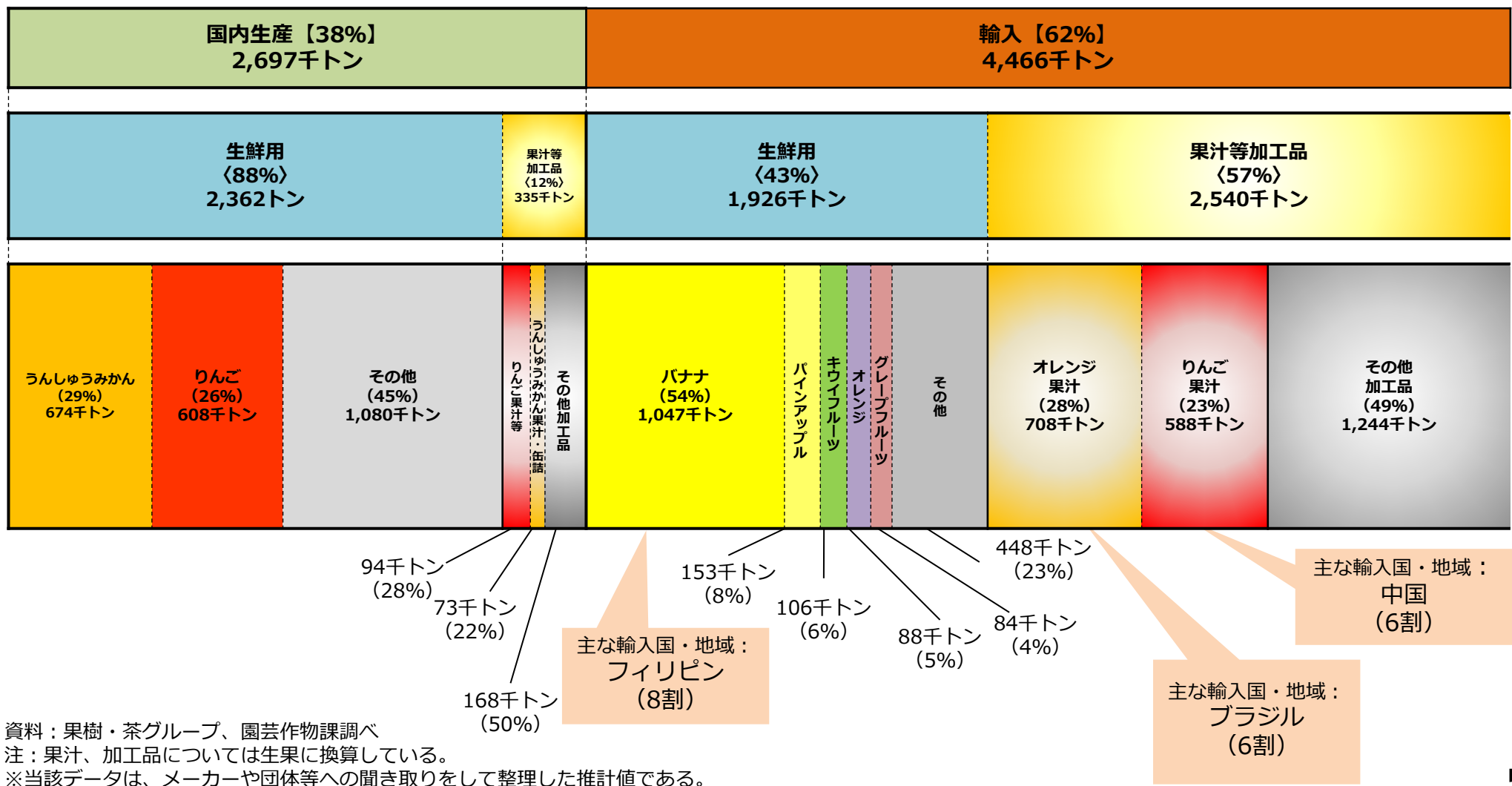


資料：農林水産省「食料需給表」

# 果実の需給構造②（国内生産、輸入の内訳）

- 果実の国内需要のうち、国産品は38%で、輸入品は62%である。
- 国内生産のうち88 %は生鮮用である一方で、輸入品の57 %は果汁等加工品である。
- 輸入の生鮮用のうち54%はバナナで、果汁等加工品のうち51%がオレンジ果汁とりんご果汁である。

## ○果実の需給構造（令和元年（推計））

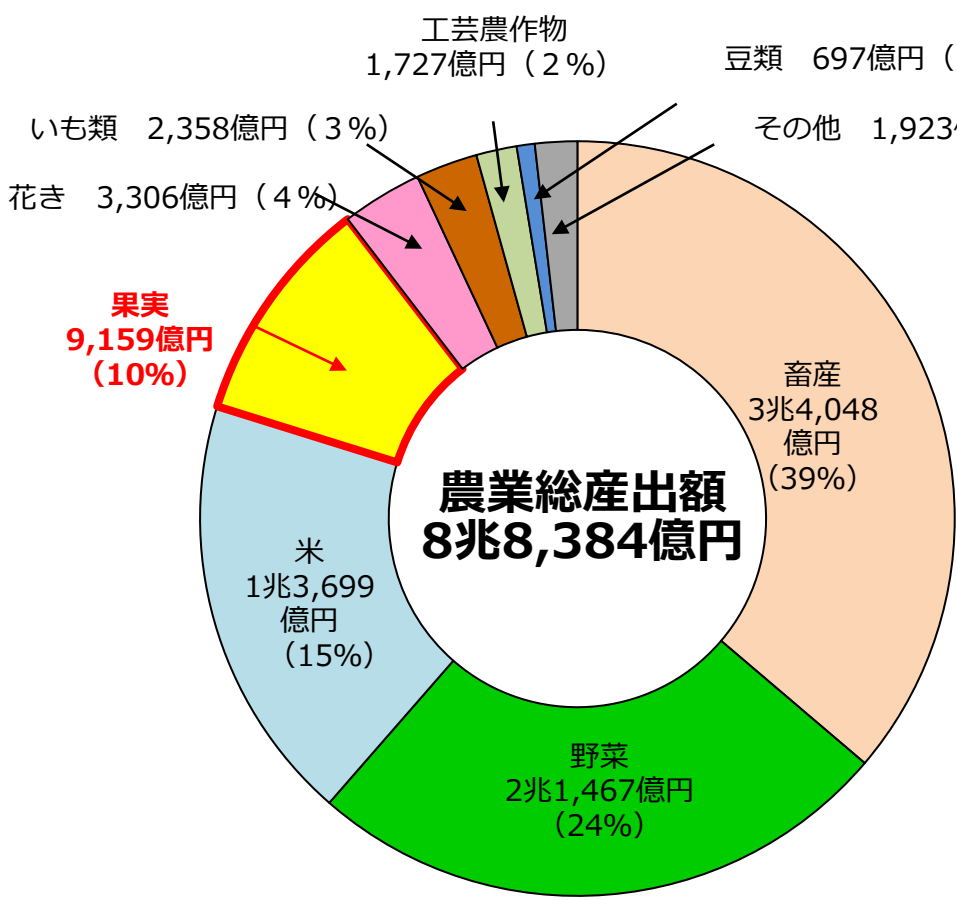


資料：果樹・茶グループ、園芸作物課調べ  
 注：果汁、加工品については生果に換算している。  
 ※当該データは、メーカーや団体等への聞き取りをして整理した推計値である。

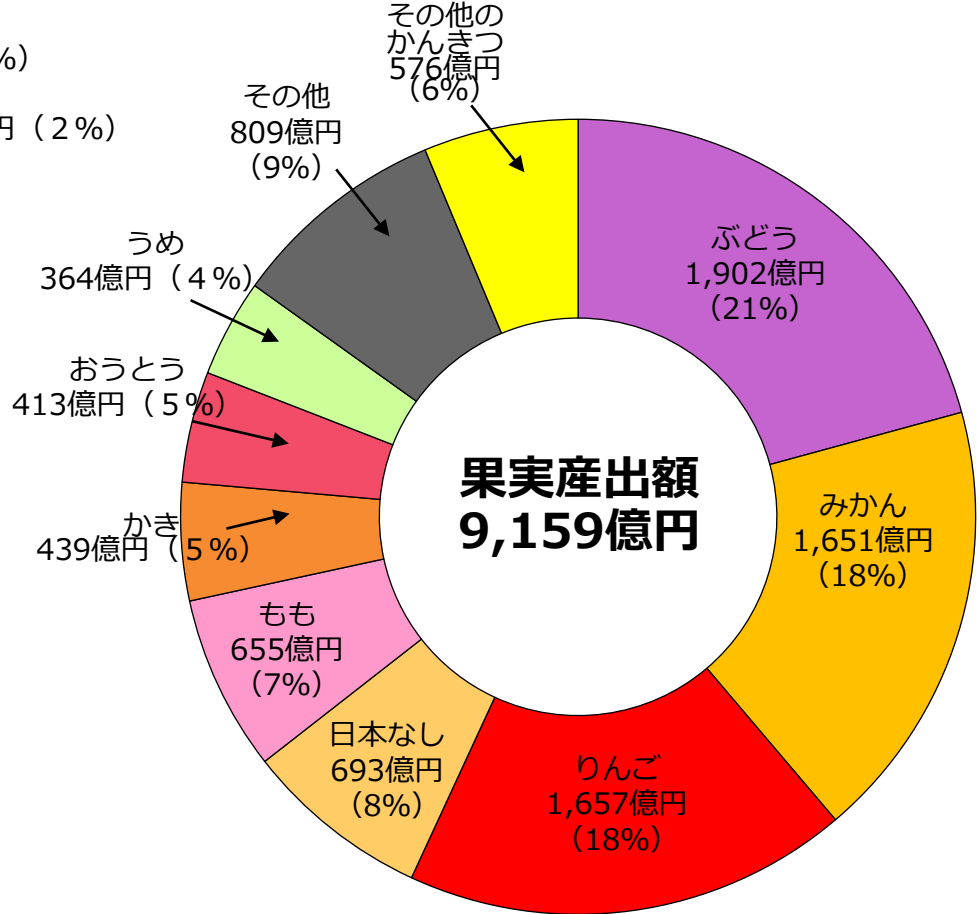
# 果樹の生産動向 ① (産出額)

○果実の産出額は約9,159億円で、農業総産出額の1割程度を占めている。  
 ○品目別では、ぶどう、うんしゅうみかん、りんごで果実産出額の過半を占めている。

○我が国の農業総産出額 (令和3年)



○果実産出額の品目別割合 (令和3年)

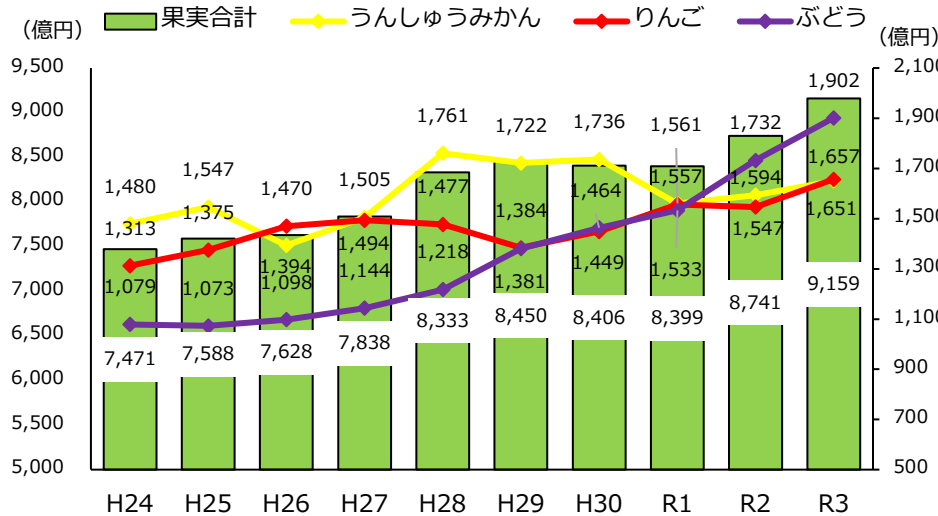


注1：果実産出額の品目別の値は、都道府県別の合計値である。  
 注2：その他のかんきつは、不知火(デコポン)、ゆず、はっさく、なつみかん、いよかん、ポンカン、ブンタン、清見、きんかん、日向夏、すだち、たんかん、かぼす、ネーブルオレンジの産出額の合計値である

# 果樹の生産動向 ② (国産果実の需要)

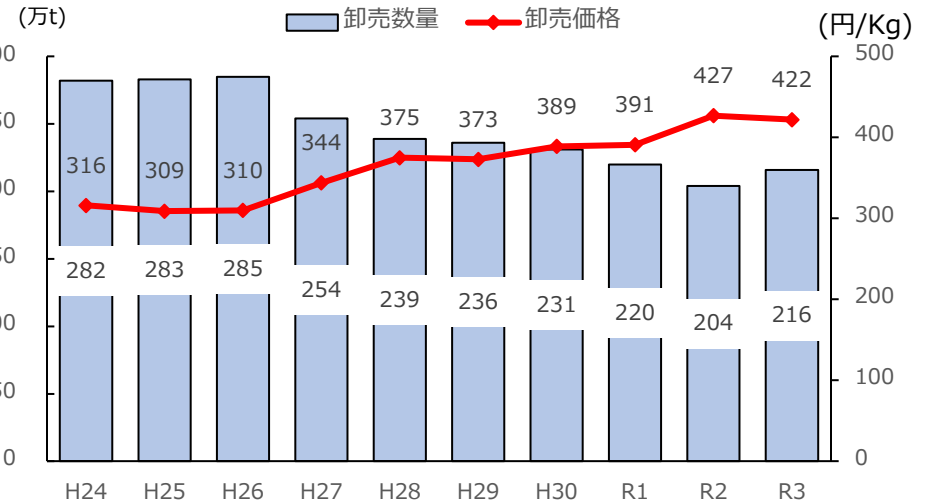
- 近年の国内の果実の産出額は増加傾向である。
- 国産果実の卸売数量は減少傾向である中、卸売価格は上昇傾向で推移している。
- この背景として、①優良品種・品目への転換等により、消費者ニーズにあった高品質な国産果実が生産されるようになったことに加え、②人口減少等による需要の減少以上に生産量が減少していることが考えられる。

## ○国産果実の産出額の推移



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

## ○国産果実の卸売数量・価格の推移



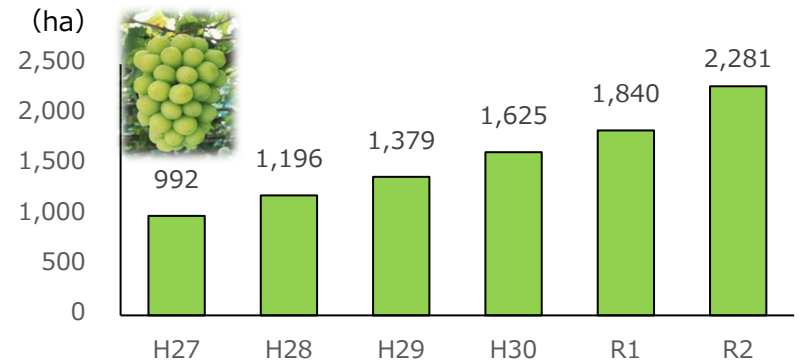
資料：農林水産省「青果物卸売市場調査報告」

## (参考) 果樹経営支援対策事業による優良品目・品種への転換面積

		28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
転換面積 (ha)	年度	1,015	922	872	859	960	979
	累計	7,543	8,465	9,337	10,196	11,156	12,136

注1：転換面積とは、果樹経営支援対策事業により、優良品目・品種への改植・新植・高接を実施した面積  
 2：累計は、果樹経営支援対策事業が開始された平成19年度以降に、改植・新植・高接を実施した面積の各年度時点までの合計

## (参考) シャインマスカットの栽培面積の推移



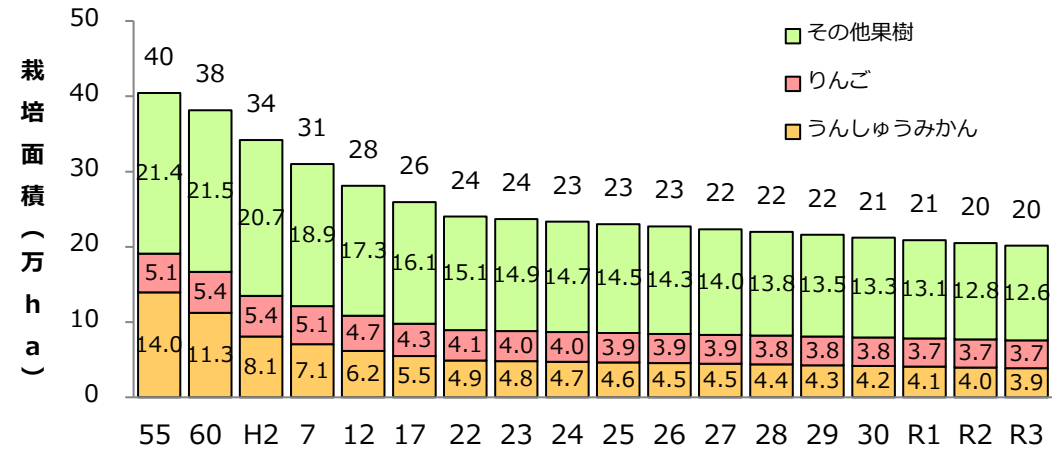
資料：農林水産省「特産果樹生産動態等調査」



# 果樹の生産動向 ③ (栽培面積、生産量、栽培農家数)

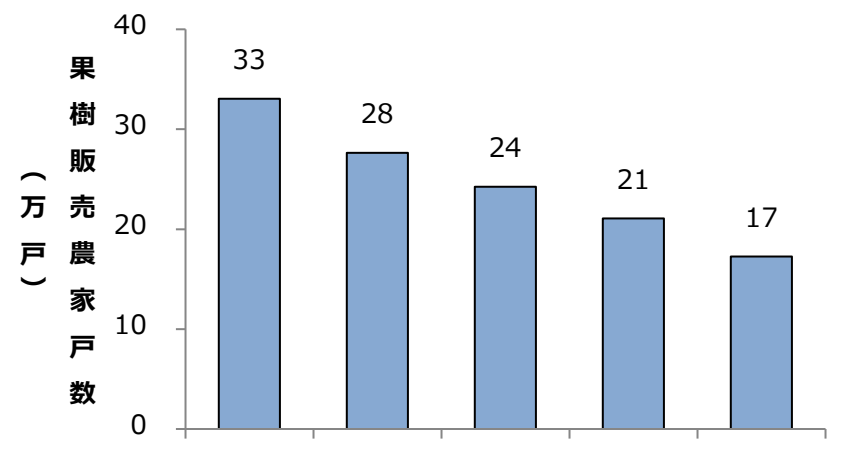
- 栽培面積や生産量は、近年、緩やかな減少傾向で推移。これは、高齢化が急速に進み、栽培農家数も減少傾向にあること等による。
- 果樹販売額のうち果樹部門における主業経営体の割合は、金額（農業粗収益）ベースで7割を占める。

## ○果樹の栽培面積の推移



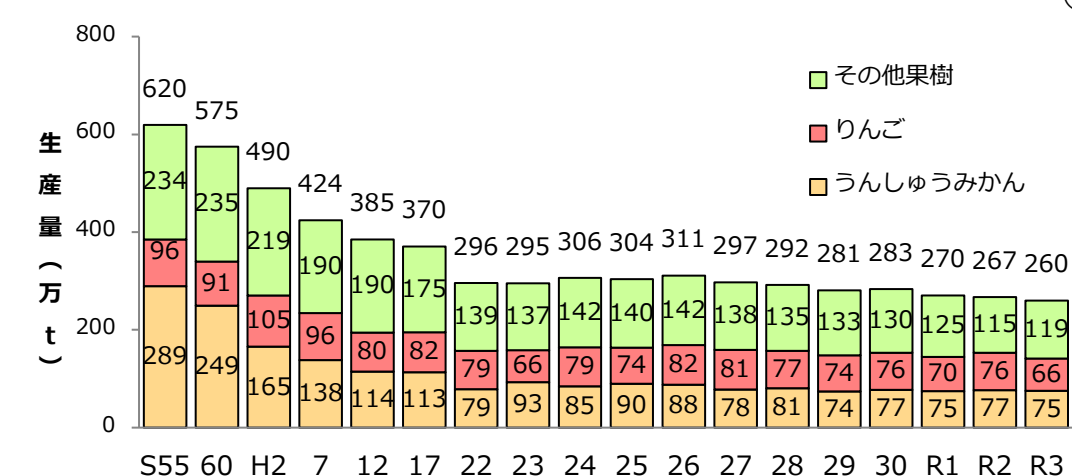
資料：農林水産省「耕地及び作物面積統計」

## ○果樹の栽培農家数の推移（販売農家）



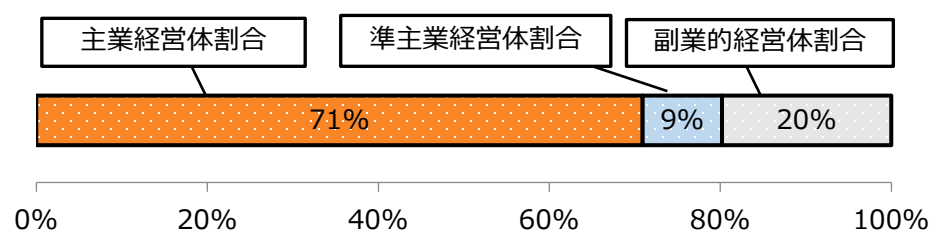
資料：農林水産省「2020年農林業センサス」

## ○果樹の生産量の推移



資料：農林水産省「食料需給表」※令和3年度は樹概算値

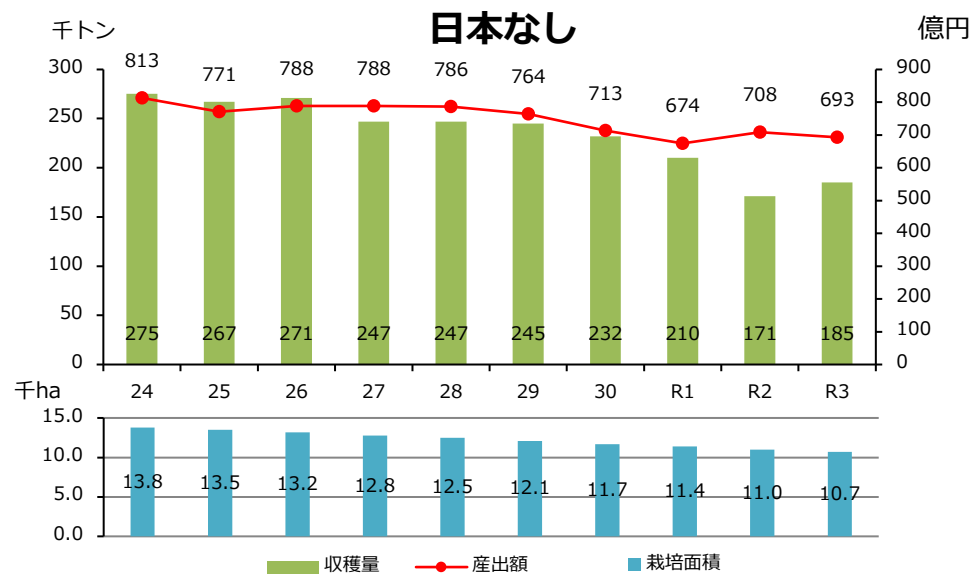
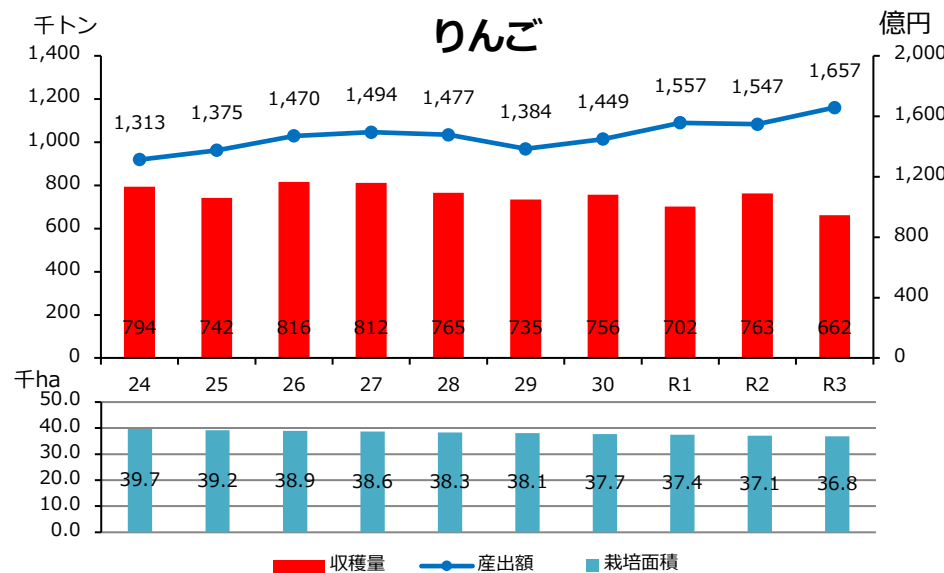
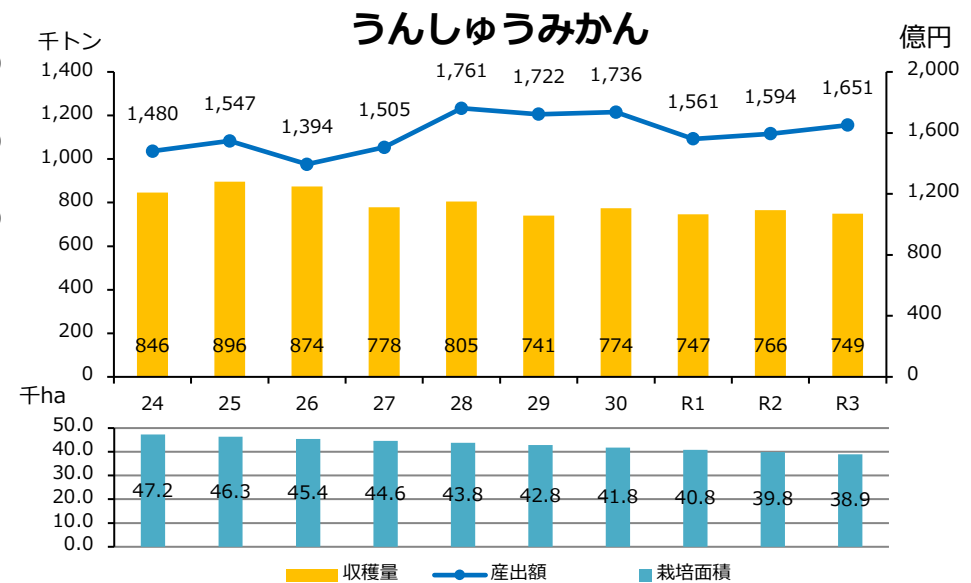
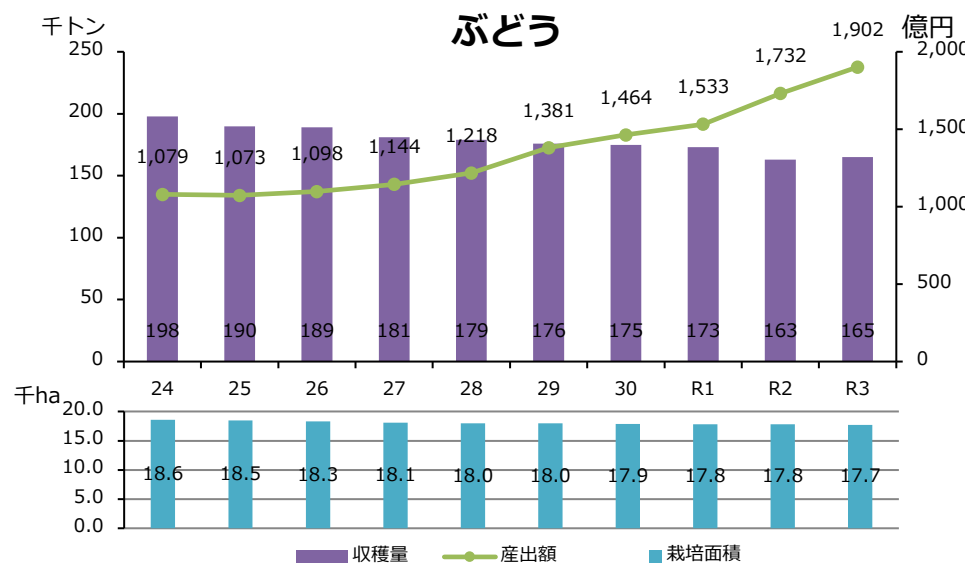
## ○果樹を販売した経営体の類型別シェア（農業粗収益ベース）



資料：「2020年農林業センサス」、「令和2年経営形態別経営統計」より推計。  
 注：1)「主業経営体」とは、農業所得が主（世帯所得の50%以上が農業所得）で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいう。  
 2)「準主業経営体」とは、農外所得が主（農業所得の50%未満が農業所得）で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいう。  
 3)「副業的経営体」とは、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない個人経営体をいう

# 果樹の生産動向 ④ (主要品目の生産量・産出額・作付面積)

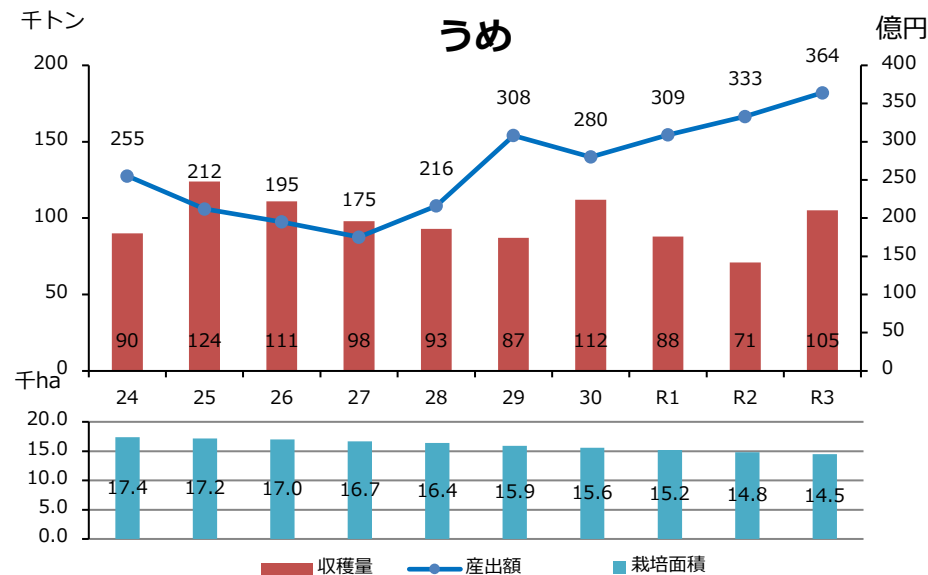
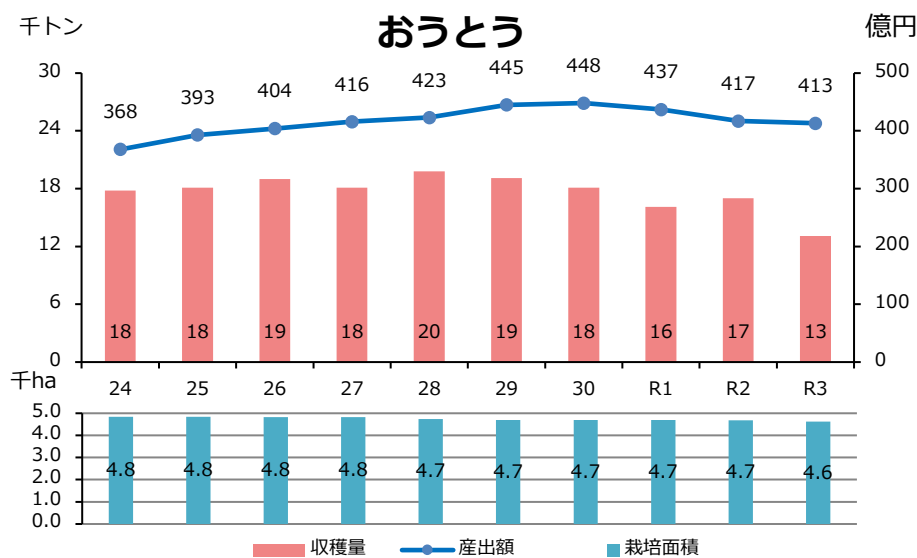
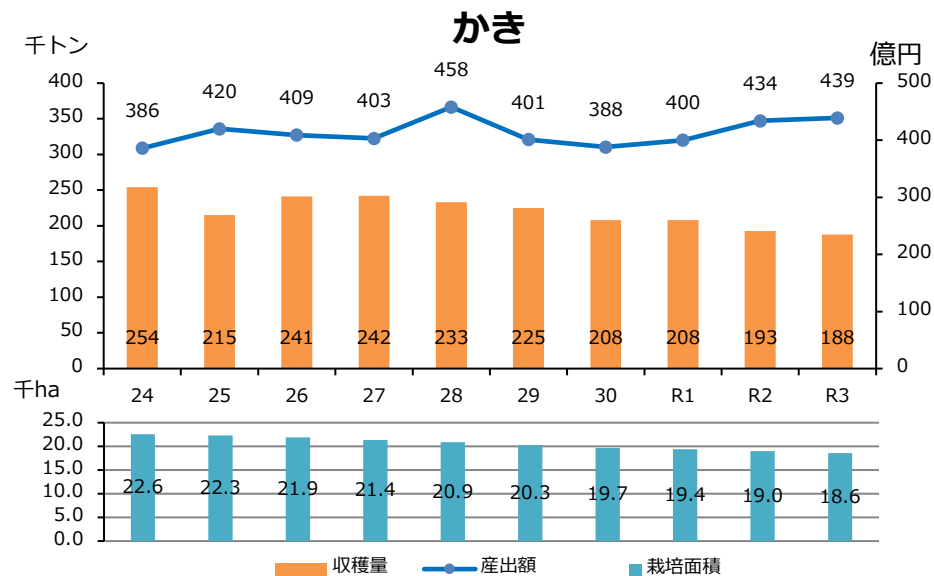
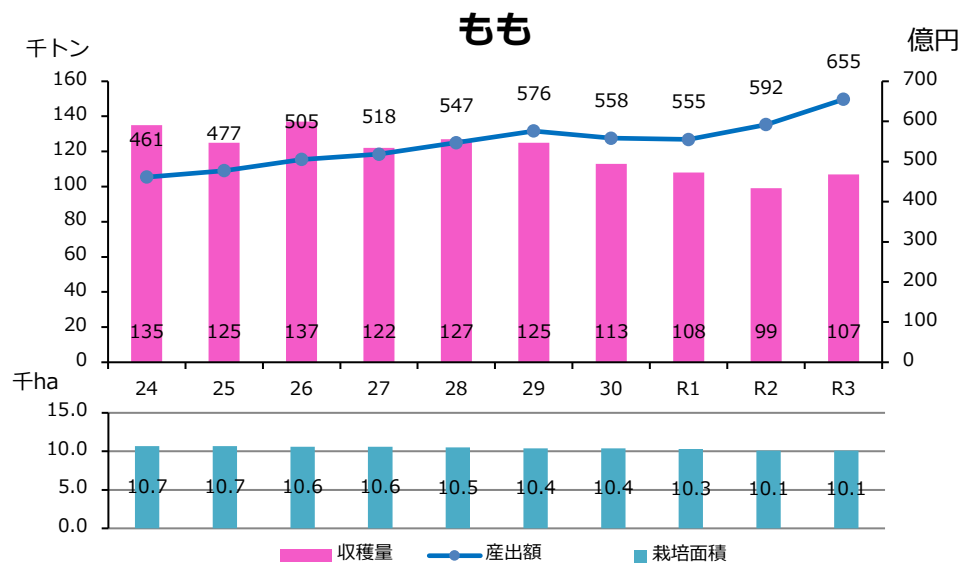
○果樹の主要品目ごとの生産量・産出額・作付面積の推移



資料：農林水産省「農林水産省耕地及び作付面積統計」、「果樹生産出荷統計」、「生産農業所得統計」

# 果樹の生産動向 ④ (主要品目の生産量・産出額・作付面積)

○果樹の主要品目ごとの生産量・産出額・作付面積の推移

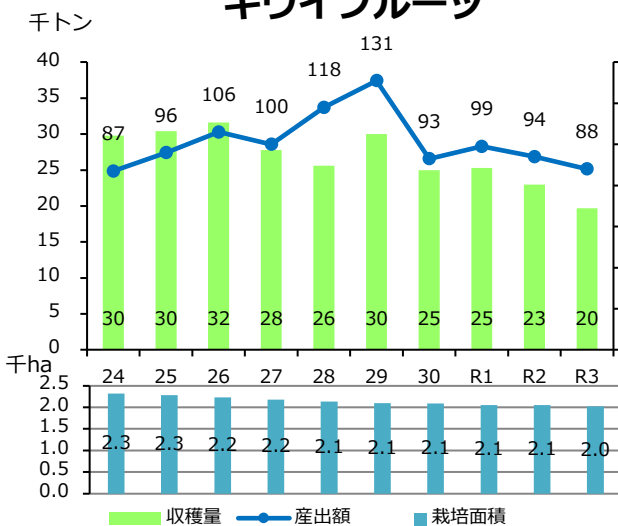


資料：農林水産省「農林水産省耕地及び作付面積統計」、「果樹生産出荷統計」、「生産農業所得統計」

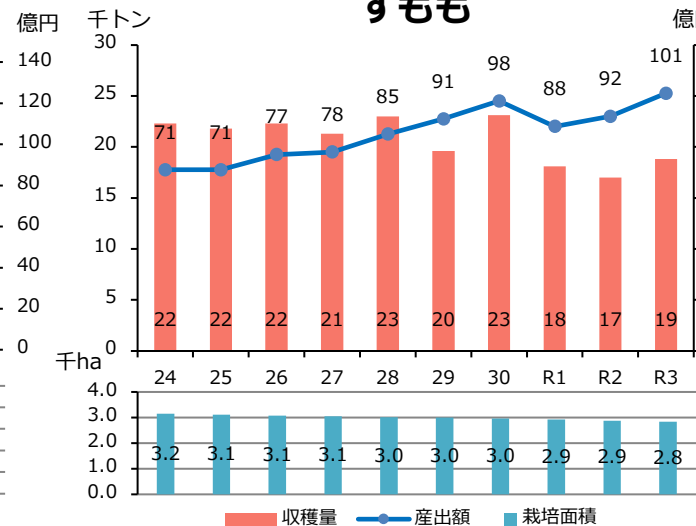
# 果樹の生産動向 ④ (主要品目の生産量・産出額・作付面積)

○果樹の主要品目ごとの生産量・産出額・作付面積の推移

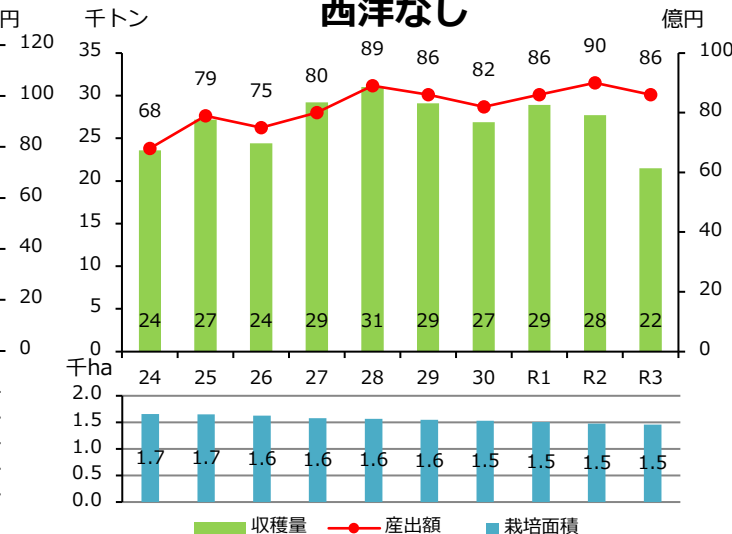
## キウイフルーツ



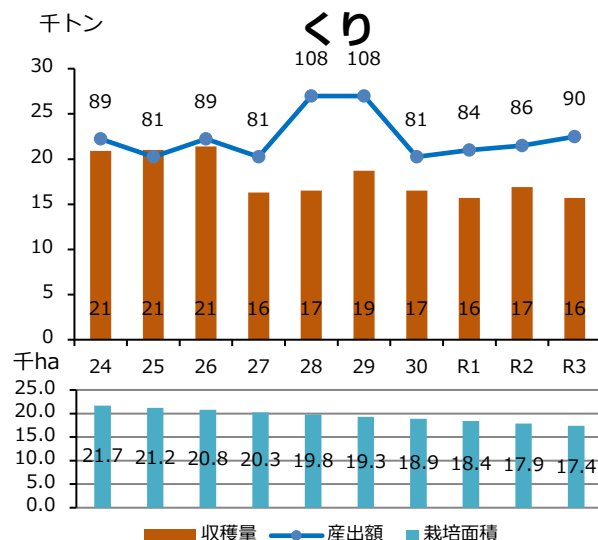
## すもも



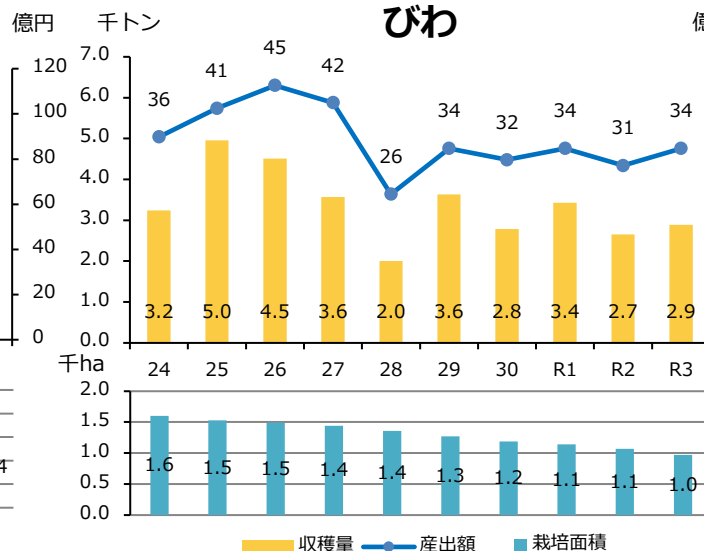
## 西洋なし



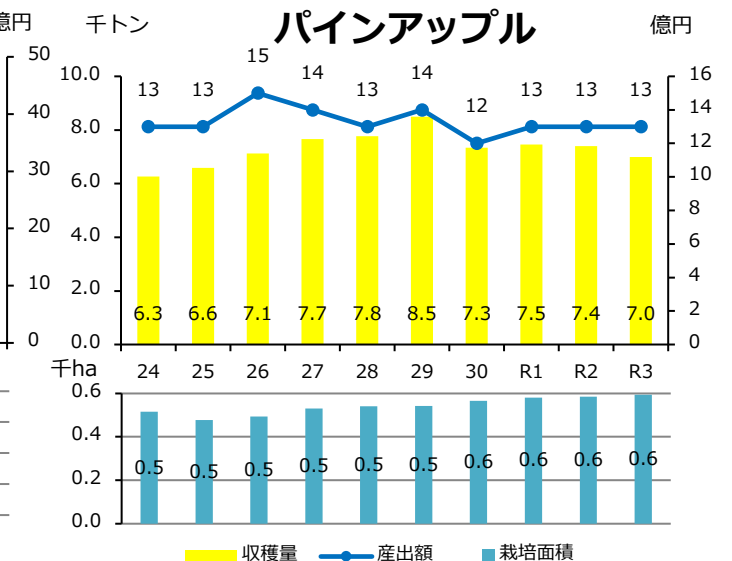
## くり



## びわ



## パインアップル

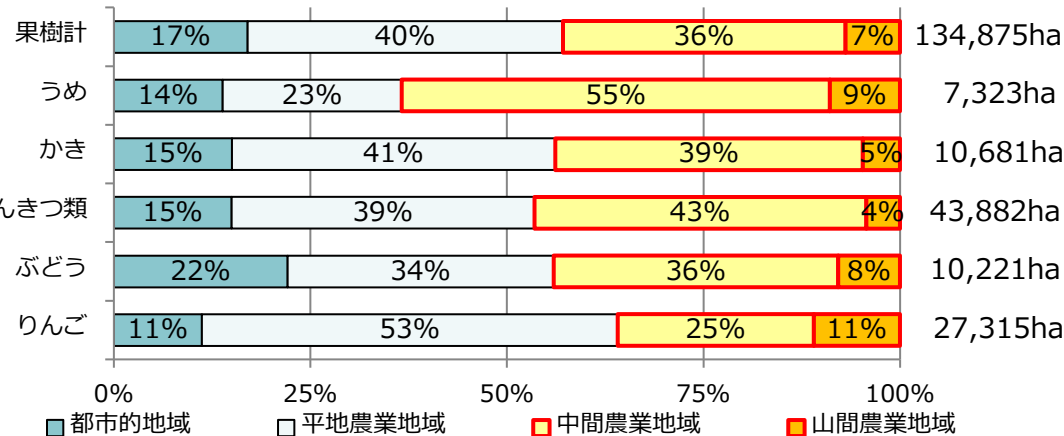


資料：農林水産省「農林水産省耕地及び作付面積統計」、「果樹生産出荷統計」、「生産農業所得統計」

# 果樹の生産動向 ⑤ (中山間地域割合、耕作放棄地面積等)

- 果樹は、他の作物の栽培が困難な中山間地域での栽培が多く、こういった地域を中心に形成された主産地においては、果樹が農業産出額の多くを占める基幹品目となっている。
- 樹園地の耕作放棄地は平成27年で15,200haであり、耕作放棄地率は8.0%となっている。

## ○ 果樹の栽培面積に占める中山間地域の割合 栽培面積計



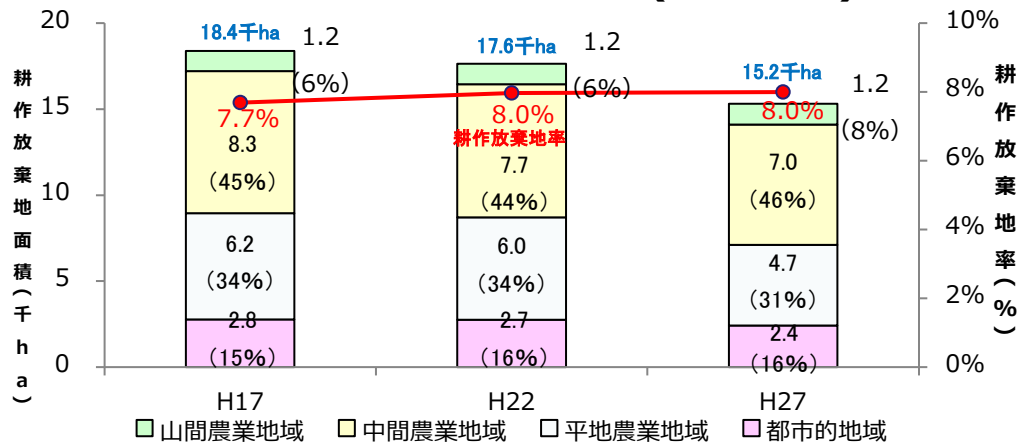
資料：農林水産省「2015年農林業センサス」  
注：値は、農業地域類型別の露地栽培面積（販売目的で栽培した栽培面積）割合

## ○ 果樹主産地における基幹品目の農業産出額割合 (令和3年)

基幹品目	主産地	農業産出額 (億円)		基幹品目割合 (B)÷(A)
		合計 (A)	基幹品目 (B)	
うんしゅ うみかん	浜松市 (静岡)	507	146	29%
	有田川町 (和歌山)	110	80	73%
ぶどう	笛吹市 (山梨)	286	144	50%
	甲州市 (山梨)	191	138	72%
りんご	弘前市 (青森)	524	459	88%
	長野市 (長野)	156	53	34%
なし	白井市 (千葉県)	29	15	52%
もも	笛吹市 (山梨)	286	104	36%
かき	五條市 (奈良)	117	52	44%
おうとう	東根市 (山形)	183	87	48%

資料：農林水産省「市町村別農業産出額 (推計)」

## ○ 樹園地の耕作放棄地面積の推移 (販売農家)



資料：農林水産省「農林業センサス」  
注：1) ( )内の数値は耕作放棄地面積の農業地域類型別割合。  
2) 耕作放棄地率は、耕作放棄地面積÷(経営耕地面積+耕作放棄地面積)×100。  
3) 本調査は2015年農林業センサスをもって廃止となった。